



## 求められる「生き方」の教育

全国個別化教育連盟顧問 河野重男

「生き方の教育」を重視する——という考え方が臨時教育審議会の答申や教育課程審議会の「中間まとめ」などで強調されている。

臨時教育審議会は第二次答申の第三章「初等中等教育の改革」の中で、「徳目の充実」をあげ、特に初等教育においては、生き方教育の土台ともいえる「基本的な生活習慣のしつけ、自己抑制力、日常の社会規範を守る態度などの育成を重視する」と述べ、さらに中等教育においては「自己探求、人間としての『生き方』の教育を重視する」と説いている。

また教育課程審議会は昨年10月に発表した「中間まとめ」の道徳教育に関する事項の中で「中学校において、基本的な生活習慣の定着、人間としての生き方の自覚、世界の中の日本人としての自覚等の内容を重視する」という、特別活動や中・高校の社会科の中でも「人間としての生き方に関する教育」を充実する方向で改善を図る、としている。

このように「人間としての生き方に関する教育」が改めて強調されるようになったということは、それなりの理由があるからであるが、そのことよりも大切なことは「生き方の教育」は教育の中核的な課題そのものである、という認識である。

最近の生き方教育への配慮は昭和56年の中央教育審議会答申「生涯教育について」においても指摘されたように、子どもたちの生活と行動にみられる諸問題への新しい対応が必要になってきたところにまずみられる。

答申では、これからの中等教育に次のような対応を要請している。

「今日の青少年の生活意識にみられる著しい個人生活への志向は、しばしば社会に対する無関心に連なり、また人々の公共心、地域社会における連帯意識の希薄化が指摘されるに至っている。このような状況に対処し、今後人々が自由に自立しつつ、しかも広い社会性を身につけて、相互の思いやりと生きがいに満ちた、活力ある社会を築いていくうえにおいて、適切な教育的対応が要請されている」

いわば、適切な教育的対応とは、まさしく生き方の指導ということである。

第13期中教審はこの課題を21世紀への教育の在り方という視点からとらえ直し、情報化などの社会の急激な変化・高齢化・国際化といった「新たな変化や新たな課題に適切に対処するためには、主体的に変化に対応する能力をもち、個性的で多様な人材が求められるものと考えられる」と『自己教育力の育成』をかけている。

その概念の具体的な意味内容として①学習意欲と意志の形成②学習の仕方の習得③生き方の探求——を位置づけ、予想される変転の激しい社会をたくましく生き抜く、自己教育力を備えた青少年の育成を目指す教育、即ち「生き方の教育」を重視するようになった。

### 研究発表会のご案内

全個教連にゆかりの深い学校の研究発表会をお知らせいたします。

期日 昭和62年10月31日(土)

会場 久原小学校(福岡) 電話092-976-0008

九州 個別化教育研究会総会開催

期日 昭和62年11月7日(土)

会場 赤倉小学校(山形) 電話0233-45-2810

期日 昭和62年11月12日(木)

会場 六合中学校(静岡) 電話05473-7-2711

期日 昭和62年11月20日(金)

会場 根岸小学校(東京) 電話03-876-2411

期日 昭和62年11月27日(金)

会場 卯ノ里小学校(愛知) 電話0562-34-7997

東海個別化教育研究会総会開催

期日 昭和62年12月3日(木)

会場 宮前小学校(東京) 電話03-718-5506

期日 昭和62年12月5日(土)

会場 成城学園初等学校(東京) 電話03-482-2106

期日 昭和62年1月29日(金)・30日(土)

会場 緒川小学校(愛知) 電話05628-3-2034

全国個別化教育研究連盟総会開催

# 全個教連会催 第3回夏季研修会を終えて

多数の参加者が、北は北海道から南は沖縄県より

第3回夏季研修会は、東板橋体育館の4つの会議室と板橋区立志村第二小学校のコンピュータ実践コースの2つの会場で行われました。前回を上まわる多数の参加者を得て（都内28名、都外50名、計78名）熱氣あふれる研修会でした。これは、個別化教育の真価が、全国に広がりつつあるあらわれとの感を強くいたしました。

## 研修会日程

第1日（7月31日）

### 1. 個別化・個性化教育のありかた

- 開会のことば 笠原春雄事務局次長
- 会長あいさつ 染田屋謙相会長
- (1) 個人差に応じた学習指導 加藤幸次先生
- (2) 個別化・個性化教育について 高浦勝義先生
- (3) コース別説明

### 2. 個別化・個性化教育の実際

- (1) 「個別化・個性化教育の理論」コース
  - 国立教育研究所 高浦勝義先生
  - 聖路加大学 浅沼 茂先生
- (2) 「個別化・個性化とコンピュータ」コース
  - 板橋区立志村第二小学校 上山英昭先生
  - 同 佐藤 彰先生
- (3) 「学習材づくり」コース
  - 愛知県・緒川小学校 成田幸夫先生
  - 千葉県・旭東小学校 松田早苗先生
- (4) 「個別化・個性化の実践」コース
  - 上智大学 加藤幸次先生
  - 埼玉県・本庄南中学校 江連富夫先生
  - 東京都・小山小学校 川島良代先生

第2日（8月1日）

### 3. 個別化・個性化教育の実際

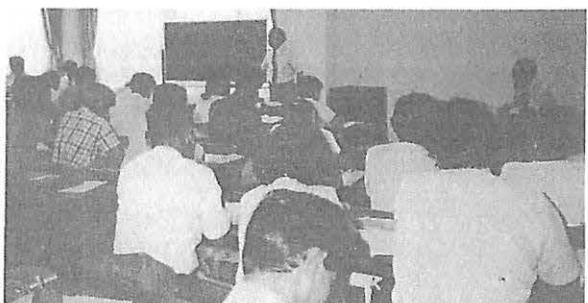
- (1) 学校参観 板橋区立志村第二小学校
- (2) VTR見学 板橋区立東板橋図書館
- (3) 第1日午後と同じ

### 4. まとめと反省

- 東板橋体育館大会議場
- 閉会のことば 笠原春雄事務局次長

酷暑の中、昨年度よりも多数の方々の参加をみましてその熱意に感銘しました。当初、金沢小学校を予定していましたが、7月初めより猛烈な暑さで急きょ冷房のきく東板橋体育館の会議室に変更しました。そのため連絡不十分などで会員の皆様に大変ご迷惑をおかけしましたことを深くおわび申し上げます。

それにもかかわらず、全体会、分科会とも熱氣あふれる研修会でした。分科会などは、定刻過ぎても終わらずまた、その後でも講師との個々の話し合いが続けられたほどでした。



染田屋会長のあいさつの要旨

- ① 今後の教育のめざすところが、本会のめざす個別化個性化にあるものと確信致します。本会参加のみなさんは、地域・学校の中核となられ、ますます精進されることを念じています。
- ② 臨教審の答申の最終案がでました。今後、ますます一人ひとりの児童にあった教育を推進すること、即ち、個別化・個性化教育を推進し、画一的な教育からぬけ出しが大切と思われます。
- ③ 本年はコンピューターの導入による新しい分野における個別化・個性化の教育を試みました。今後、更に研究発展させていってほしいと思います。

### 4. 講義・発表・学習材づくり

加藤副会長からは、個人差に応じた学習指導について「学力の個人差」「学習時間の差」「学習適性の差」の個別化からみた考え方と、「興味・関心の差」「生活経験の差」の個性化からみた考え方について講義がありました。また、高浦先生からは、戦後教育を3つの時代に分類し、現在は、個性を生かした教育を中心に、自己教育力を身につけさせる教育がのぞまれるとの話がありました。

また、志村第二小学校で開かれた第2分科会では、パソコンによって、どう個別化を図るかをテーマに、教材作成支援ツールを使っての教材作成の実習と、CAI授業の参観を行い、2日間で40数名の先生が参加されました。

### 5. 参加者の声

夏期研修会のアンケートをお願いしたところ、多数の方々から貴重なご意見をいただきました。

- 今回の研修で、自分の一斉授業の中で個別化・個性化の指導らしきものを入れたことに気づき、もっとこれらを取り入れた指導が開拓できる自信がつきました。
- 個別化・個性化教育のあり方で基礎的理論から実践まで学ぶことができ、今後の指導に示唆を得ました。
- コースごとにテーマを決めて話し合ってほしかった。
- VTRはよかったですが討論の時間がほしかった。
- 2日間だけの参加でしたが、日本各地の先生方の熱心な姿勢をみて大変刺激を受けました。

## 盛会だった連続研修会

本会では、毎年、「合科・総合学習の実際と個別学習材の検討」を柱に、実践研究のレポートを出し合いながら、連続の研修会を行っています。

去る6月13日㈯、新装なった名古屋・教育産業K Sビル3階・会議室をお借りして、第3回東海個別化教育研究会連続研修会を開催しました。例年30名程度の会でしたが、本年は、静岡・愛知・三重の各県から、50名に及ぶ会員がつめかけ、急きょ会場に机・椅子を追加する程の盛会となりました。

午後3時・高木省三会長（愛知・東浦町教育長）のあいさつ・経過報告のあと、講演と研究発表・研究協議を下記のような内容で行いました。

○講演 「個別化教育の源流」（15：15～16：15）

国立教育研究所主任研究官 高浦勝義先生

〈講演の柱〉

- (1) 源流としての“インフォーマル・オア・オープンエデュケーション”
- (2) プラウデン報告書(1967)にみるカリキュラム観
- (3) 経験カリキュラムの背景
- (4) わが国の「個別化・個別化教育」への示唆

○研究発表・協議（16：15～17：20）

「ひとりひとりの個人差に応じ自ら問いつづける個別学習のあり方を求めて」

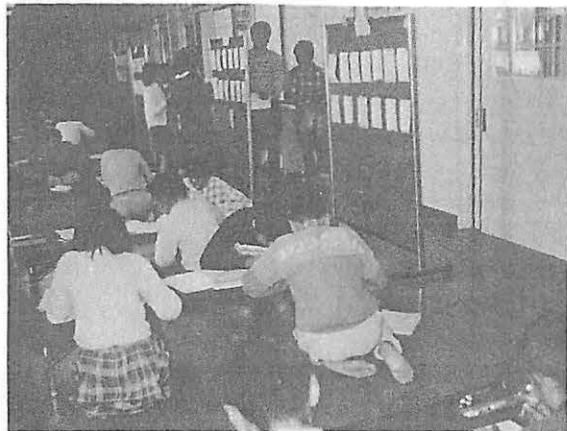
——社会科地域教材を中心にして——

単元「わたしたちのくらしと公民館」

三重県松坂市第一小 松本 実先生

上智大の加藤幸次先生にチーフターをお願いし、研究協議をまとめさせていただきました。

研修会終了後、会場をかえて恒例の懇親会を開きました。23名の賛同者が集い、大いに懇親を深めました。



東海個別化研究会の事務局 緒川小へ

（東海個別化研究会事務局長 竹内順夫）

## 九州個別化教育研究会 発足三年目を迎えて

「九州にも個別化教育研究会をつくろう」という願いがかない、発会3年目を迎えることができました。

昨年は、大会テーマ「個別化教育は、教育活性化の主役になりうるか」をもとに、九州・沖縄各県の実践報告を中心とした研究会（全個連会報第8号で報告）と、年2回の会報発行、年度末の研究紀要の発刊を行い、研修の充実と組織の拡大に励んで来ました。



九州個別化研究会の事務局 久原小へ

3年目を迎えた本年は、授業を中心にすえた研究会をぜひ実現させたいという願いが、久原小学校のご理解とご協力によってかなえられることになりました。

大会テーマを、「今、なぜ、個別化教育か」とし、昭和62年10月31日、福岡県久山町久原小学校で、チャレンジタイムとマイベース学習の公開授業と協議、その後、国立研究所室長、石坂和夫先生から大会テーマについて講演をしていただきます。

昨年の研究会は、夏休み中に実施しましたので、予想以上の参加（150名）を得ることができました。本年は、10月実施のため福岡県外からの出席を心配していますが、会員も少しずつ増えていますし、授業公開を取り入れた研究会であるため、昨年程度の参加者を望んでいるところです。

九州・沖縄地方では、個別化・個別化教育を全面に打ち出しての実践研究及び研究発表会は活発ではありませんが、オープンスペースを取り入れた校舎の建築や、空き教室を活用しての個別化教育が広まりつつあります。お互いの実践研究の交流を深め、「子ども一人ひとりを大切にする」すなわち、基礎・基本の確かな習得と個性的伸長をはかり、一人ひとりの子どもの学習が成立する授業の指導に努めていかなければなりません。そのためにも一層、会の組織の拡大と充実に励む覚悟です。

（九州個別化研究会事務局長 横大路達也）

## 事務局だより

事務局長 木下 靖正

台風15号の影響で、東京は強い風雨にさらされております。全国の会員の皆様のお勤め先の学校ではいかがでしょうか。運動会等も間近かにひかえ、校庭が荒れやしないかと気がかりです。

さて、本連盟発足に力を注ぎ、当初より事務局長であられた松崎二葉先生がこのたびご勇退になられました。

染田屋謙相会長先生、加藤幸次副会長先生のお力もさることながら、連盟発足以来、とばしい財政状況の中で三年間に亘り連盟全体のために尽されたご苦労は察するにあまりあるものと思われます。

この紙面をかりまして、ご苦労に謝するものであります。ご苦労さまでございました。

## 事務局会を

62年5月9日

染田屋謙相会長先生・加藤幸次副会長先生をはじめ、事務局員多数の出席を得て開催。

記

1. 人事異動にともなう事務局組織の一部変更が決定した。

事務局次長 木下笠原 靖正春雄	庶務部	部長	佐藤 武男
		副部長	奥田 實・新田 豊作
			奥本 治典 橋本
	会計部	部長	石坂 和夫
		副部長	柳田 秋美・友山真智子
	研究部	部長	高浦 勝義
		副部長	三谷 恭平・渡辺 茂
			田中 清介
	研修部	部長	上山 英昭
		副部長	倉上 保・大原 満夫
	組織部	部長	笠原 春雄(兼務)
	編集部	部長	渡邊 鈦一
		副部長	若松 一雄・大谷 清子
			松田 早苗

2. 夏季研修会の開催に備えた。

- 7月31日 東板橋体育馆 講堂  
~8月1日, 会場 東板橋図書館 映写室  
志村第二小学校 コンピュータールーム

3. 連盟の会誌発行について

会員の皆様にたいする連盟としてのサービス事業として、わかりやすい個別化・個性化教育の理論と実践を紹介するもの。

グラビヤを多くして、見やすく、読みやすいものとする。

発刊予定 10月中旬

4. 関東地区 学期研究会を10月下旬に予定

開きました

## すばらしい本を

教室で生きる ちいさな教育学

全個教連会長 染田屋 謙相先生著

「本書では、教育の原理・原則を再確認し、それをどのように、授業の中に生かしていくかを、問答形式をかりて述べてみました。」と、先生も、まえがきの中で申されておりますが、非常に読みやすく、わかりやすいのが特色と言えましょう。

さらに、1. 教育について考える。に始まり、IV よい授業のための教育技術、などVI章から成り、その中で、教育技術法則化運動の成果にもふれるなど斬新な内容にもあふれ、個別化・個性化の教育実践には欠かせない研究書であります。

発行所 学陽書房

読みました

会計の窓口が変わりました。62年度、会費の納入は、新しい窓口へお願ひします。

東京都目黒区下目黒6-5-22

国立教育研究所内 石坂 和夫 先生 宛

銀行振込の場合 → 店番号112 三義銀行

口座番号0152579 目黒通り支店

会員用の新しい振込用紙は作成中です。

## 関東地区的会員の皆様へ

学期研究会の日程が決まりました。

- 日 時 10月24日(土) 2時より
- 場 所 東京都目黒区立宮前小学校  
〔東横線都立大学前駅下車〕
- 内 容 会誌を読んで話し合う会
- 参 加 者 関東地区と一応しておりますが全国の会員どなたでも参加できます。
- 費 用 無料

連盟事務局 〒173 東京都板橋区加賀2-2-11  
板橋区立金沢小学校内